

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 夢空ユニコーン		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日 ～ 2026年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日 ～ 2026年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○活動プログラムが固定化しないように工夫している。	○毎回の支援後の振り返りにおいて、その時の子どもの姿や状況を確認、共有している。子どもの発達段階やスキルの獲得状況を踏まえた活動を設定している。	○勉強会や内部研修を実施する等、職員のスキルアップを目指し、活動の幅を広げていく。
2	○職場の風通しが良く、支援目標の設定、日々の支援の振り返り、活動プログラムの設定で多角的な意見交換ができています。	○事前の打ち合わせや支援後の振り返りを毎回行い、その日の職員全員で参加している。 ○専門性や経験の異なる職員間で意見交換を積極的に行うようにしている。	○効率的な業務遂行を模索し、意見交換やケース会議の時間確保を目指していく。

3	○相談や申し入れに対して、その都度体制を取り対応している。	○発達や子育てに関する相談に対して、面談の設定や必要な情報提供を行っている。 ○関係機関連携の要望に対して、体制を取り、保育園や幼稚園への訪問を行っている。	○声を上げにくい保護者に対しては、職員の方から働きかけを行っていく。
---	-------------------------------	---	------------------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○「きょうだい児支援」「地域との交流」に関して事業所独自の取り組みをしていない。	○事業所のみでの取り組みが難しい。	○法人が手掛けるイベントへ事業所として参加し、地域へ開いた活動を模索する。
2	○非常時の対応が保護者に周知されていない。	○非常時の対応がまとめきれていなかった。職員の避難訓練のみに留まっていた。	○避難訓練の方法を整備し直し、職員での実施だけでなく、保護者にも参加してもらおう取り組みを行う。
3			